【別紙様式２】

フロンティアスクール用報告書

都道府県名	広島県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	安　浦　町　立　安　浦　中　学　校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	３	４	４		１１	２２
生徒数	１１８	１４９	１２９		３９６	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

「基礎・基本の確実な定着のための指導法の工夫改善」

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・１学年　国語・数学・英語
・２学年　国語・数学・英語
・３学年　選択教科（国語，数学，英語）

「読み・書き・計算」は基礎・基本の最も重要な要素であり，例えば，本や新聞を読み多くの知識を得る，自分の意志を書いて表す，日常生活で必要な計算をするなど，「生きる力」の根源である。その中心となる教科が国語・数学・英語であると考え，研究の対象とした。また，各学年に応じた多様な指導法を用いることにより，それぞれの指導法の成果と課題がより明確になると考え，全学年を対象として研究を進めた。また，「ことばの力」育成の研究については，国語科のみならず各教科や道徳，さらに総合的な学習の時間を通して行うものと考え，全教科を研究の対象とした。

(2)　年次ごとの計画

平成14年度	○　テーマ　「基礎･基本の確実な定着のための指導方法の工夫改善」 ○　仮　説 ①　学習活動において，多様な言語活動を取り入れ，少人数指導を行えば，読み，書き，計算の力が身に付き，学力が向上するであろう。 ②　朝の読書活動を定着し，生徒の家庭学習を習慣化させれば，日々の生活の質が向上し，学力が定着するであろう。 ○　研究内容・方法 １　多様な言語活動を基盤にした指導法の工夫 (1)　多様な読み方を授業のベースに取り込む工夫 (2)　書くことを取り入れた授業展開の工夫 (3)　視覚・聴覚に訴える教材・教具の工夫開発 ２　少人数指導の実践 (1)　1年生　国語，数学，英語の3教科におけるTT指導，２年生　数学TT (2)　1年生　数学，英語における少人数指導 ①　数学　単純少人数分割

平成14年度	②　英語　習熟度別少人数分割 (3)　2，3年生における選択授業 2年　4クラス5コース（前期　国語，数学，英語，美術，音楽） （後期　国語，社会，数学，英語，体育Ⅰ,Ⅱ） 3年　4クラス6コース（国語，数学AB，英語AB，社会） 〈指導のポイント〉 ①　課題の発見 ②　補充・深化学習 ③　達成度の確認 3　読書活動の取組 (1)　読書活動の興味づけとしての「朝の読書」の継続 (2)　読書活動の発展としての図書館教育の充実 4　家庭学習の習慣化のてだて (1)　当分の間，家庭学習課題を充実させる (2)　習慣化のめやすを明確にする

平成15年度	○　テーマ　「基礎･基本の確実な定着のための指導方法の工夫改善」 ○　仮　説 ①　国語・数学・英語において，少人数・習熟度別指導を行い，家庭学習を定着させれば，学力が向上するであろう。 ②　各教科において，「ことばの力」育成のための授業や教材・教具の工夫を行えば，学力が向上するであろう。 ○　研究内容・方法 「基礎・基本の徹底」は，本校の生徒実態からも重要な課題である。とりわけ，「読み・書き・計算」は基礎・基本の最も重要な要素であり，「生きる力」の根源であると考える。その基礎・基本の確実な定着のために，２年目の今年は，国語・数学・英語を中心として，「わかる授業」の創造に努めるとともに，個に応じた指導方法の改善や学習内容の習熟の程度に応じた指導の充実を図ることが重要であると考え，少人数・習熟度別指導を実施することとした。また，学力を定着させるためには繰り返し指導も重要であり，家庭学習の習慣化の手立ても工夫していく必要がある。 次に，学習における基礎・基本を考えた時，全ての知的活動の基盤になるのが「ことば」である。ことばの力は，実際にことばを「読み」「書き」「聞き」「話す」という活動を通して身に付くものであり，国語科のみならず，各教科や総合的な学習の時間，学校行事などを通して養っていく必要があると考える。その「ことばの力」育成のための工夫を，具体的な達成目標を設定し，研究を進めた。 1　「ことばの力」育成のための指導法の工夫 (1)　各教科における「ことばの力」育成のための授業の工夫や教材・教具の工夫・開発 (2)　総合的な学習の時間や学級活動などを活用した「ことばの力」育成の工夫 (3)　読書活動の取り組み ・読書活動の活性化のための工夫 ・学校図書館活用のための工夫 2　少人数指導の実践 (1)　１年生　国語，数学，英語の少人数指導の授業研究推進

平成15年度	(2)　２年生　国語，数学，英語における習熟度別授業の実施 (3)　３年生　選択教科（国語，数学，英語）における習熟度別授業の実施 ３　家庭学習の習慣化の手立て (1)　家庭学習課題の工夫 (2)　家庭学習習慣化のための家庭連携の方法 ○　検証方法 (1)　教科での検証（定期テスト，小テスト，アンケート調査） (2)　全学年実施のNRT検査（１学年は国語・数学の２教科，２・３学年は国語・数学・英語の３教科で５月末に実施） １学年実施のCRT検査（国語・数学・英語の３教科で２月に実施） (3)　生徒の生活・学習における実態調査

平成16年度	○テーマ　「確かな学力を育むための指導法の工夫改善」 ―「書く力」の育成を通して― ○仮　説 ①　「書く力」育成のための指導法の工夫や教材・教具の開発を行えば，学力が向上するであろう。 ②　少人数・習熟度別指導を行い，家庭学習を定着させれば，学力が向上するであろう。 ○研究内容・方法 １　「ことばの力」育成のための効果的な指導法 (1)　「書く力」育成のための指導法の工夫，教材教具の開発 (2)　国語科との連携 ２　少人数・習熟度別指導における効果的な指導法 (1)　１年生国語，数学，英語における学習習熟の観点を取り入れた少人数指導の実施 (2)　２年生国語，数学，英語における習熟度別授業の実施 「発展コース」における効果的な指導法 (3)　３年生国語，数学，英語における多様な指導法の工夫（一斉･ＴＴ･少人数指導の単元別編成） ３　家庭学習の定着に向けての効果的な指導法 (1)　国語・数学・英語の家庭学習定着に向けての工夫改善 (2)　理科・社会における効果的な学習課題の出し方

(3)　研究推進体制

(1) 企画委員会の設置 ・校長，教頭と教務主任，研究主任，生徒指導主事，学年主任をもって構成する。 ・定期的に会合を開き，教育活動全般及び研究推進のための企画立案，実践方法，評価等について協議し，実施していく。 (2) 研究部の充実 ・研究部の企画と運営のもとに定期的な校内研修会を開き，研究の深化を図る。 ・理論研修，授業研究，事例研究等を行い，必要に応じて指導主事等の外部講師を招聘する。 ・研究部を中心に実践校視察を行い，学んだことを校内研修会に環流して研修を深める。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

１　全領域で「書くこと」を取り入れた授業展開を実践した。その結果，習熟度別指導をあわせて取り組んだ２年生（特に国語科では）の「書く」意識が大幅に改善された。

①　全教科で，レポートや新聞づくり，学習記録作成など「書くこと」を授業の過程に位置付けて取り組むことができた。

②　道徳では，全学年で，毎時間の学習を「３００字」でまとめる学習を基本におき，自己の思いを「書くこと」で内面化にせまることができた。

③　特別活動のうち，学級活動では，全学年全員が「１分間スピーチ」に取り組み，全校で成果を発表することができた。

④　総合的な学習では，全学年とも，レポート制作による表現を取り入れ，書くことの集大成をはかった。

２　少人数指導指導（国語，数学，英語）の実践により，授業の「満足度」は高くなり，特に２年生の習熟度別授業では「学力向上」の実感をもたせることができた。

(1)　１年生１クラス(４０人)２展開(２０人×２クラス) 少人数指導

【教 科】	【授業に対する満足度】	【学力向上の実感】
国語科	８７％	７８％
数学科	７２％	７５％
英語科	８１％	７７％

(2)　２年生２クラス３展開（基礎・充実・発展）習熟度別指導

【教 科】	【授業に対する満足度】	【学力向上の実感】
国語科	（昨年度　７０％）	(調査せず)
	基　礎　８７％	８１％
	充　実　７８％	８１％
	発　展　８５％	８５％
数学科	（昨年度　５３％）	(調査せず)
	基　礎　７１％	６０％
	充　実　６６％	５４％
	発　展　３２％	２４％
英語科	（昨年度　６１％）	(調査せず)
	基　礎　６６％	４７％
	充　実　８６％	６６％
	発　展　８０％	８０％

【国語科の取り組み】

①　生徒の実態

言語事項･･･言語の貧弱さ，文字言語に対する抵抗感の高さ，小学校４年生あたりから書けない漢字が急増する。

書くこと･･･書くのはイヤだ，めんどうだ，何を書けばいいのかわからない。約半数の生徒が「書かない」ままで済ませる。

②　言語事項（漢字学習を軸に）

長期･･･９月「小４から中２までの全学習漢字（1608字）テスト」
８割合格者　　１３７人中２１人（約15.3%）

１月「小４から中３までの全学習漢字（1945字）テスト」
８割合格者　　１３９人中５４人（約38.8%）

中期･･･11月「９月の全学習漢字テストをもとに設定した受検級の漢字テスト」
８割合格者　　１１４人中６６人（約57.9%）

12月「11月の結果をもとに設定した受検級の漢字テスト」
８割合格者　　９５人中３１人（約32.6%）
短期･･･毎時間１０問の習熟度別小テスト
１年次のＴＴ指導
８割通過率　49%(５月)→74%(９月)→89%(11月)
２年次の習熟度別指導
基礎コース･･･小３～４年の学習漢字以上から出題
８割通過率　30%(４月）→ 80%（12月）
充実コース･･･中１以上の学習漢字から出題
８割通過率　70%(４月）→ 80%（12月）
発展コース･･･当該学年以上の漢字から出題
８割通過率　当初よりほぼ100%

③　書くこと（ノート指導を軸に）
生徒の学習習熟に合わせて，内容を工夫する。
基礎コース･･･単元ごとの「書き込み学習プリントノート」作成
「聞く･メモをとる」･「まとめる」学習を必ず組み込む。
充実コース･･･学習まとめノート作成
「〇字程度で書く」学習を必ず組み込む。
発展コース･･･300字要約ノート作成
「要約」「事実や根拠」の叙述
成果･･･記述式問題における「無回答」生徒の推移

月	５月	７月	１０月	１２月
人数（人）	66 ／ 143	50 ／ 142	19 ／ 141	12 ／ 140
人数比(%)	４６．１	３５．２	１３．４	８．６

(3)　３年生選択教科における習熟度別(基礎･発展)指導

	【授業に対する満足度】	【学力向上の実感】
全 教 科　（昨年度	７１%）	(調査せず)
全コース	８４%	８７%

3　読書指導の成果
「朝の１０分間読書」をきっかけとして，約８０%の生徒が日常的に読書をするようになった。昨年度６月には，読まない生徒が５６%であったから，大きな成果をあげているものといえる。
(1)「朝の１０分間読書」の継続
昨年度　学級担任による読書指導
今年度　全教員による読書指導
(2)　図書館教育の充実
教科における図書館を利用した授業の実施
4　家庭学習定着のための取り組み
(1)　「学習の手引き」,「新生活ノート」作成と活用
(2)　家庭学習時間
１年生１時間　　５９%（昨年度２６%）
２年生２時間　　３６%（昨年度　５%）
３年生３時間　　１９%（昨年度 調査せず ）
めやすを示し，「学習の手引き」,「新生活ノート」を活用を通して，指導を繰り返すことにより，家庭学習時間の定着度が向上した。
(3)　家庭学習を組み立て
・国語・数学・英語では，習熟度に応じた，基礎的な内容の復習を反復・継続して取り組む。
・社会科・理科では発展的な内容を計画的に取り組むことができた。

２．今後の課題

１　「書くこと」を授業過程に位置づけた授業研修の実施。
　①　理科･社会におけるレポート指導の具体的な研修や，音楽･体育･美術･技術家庭科における学習記録の取り組みの具体的な提案を行う。
　②　各領域（道徳，特別活動，総合的な学習）の担当者を設定し，「書くこと」の全体計画と提案･検証を行う。
２　少人数指導（国語，数学，英語）の実践
　学習の成果が実感できるような検証方法を定期的に取り入れ，学習者の意欲を高める取り組みにしていく。少人数指導によって「わかる」から「できる」実感のもてる授業へ。
　(1)　１年生･･･学習習熟の観点を取り入れた少人数指導の実施がより効果的である。小学校からの学習習熟をはかるために，入学と同時に診断を行う。
　(2)　２年生･･･生徒の学習課題を整理し，授業研究の方向を明らかにして，重点的に取り組む領域の継続指導と充実をはかる。
　(3)　３年生･･･(必修）単元により，一斉･ＴＴ･少人数の指導法を取り入れる。
　(選択)「基礎」「応用」の２～３コースで３期に分け，３教科をすべて選択できるようにする。
３　読書活動の充実を図る。
　(1)　実態分析から考えられる課題を整理し，「朝の１０分間読書」教職員向けのマニュアルづくりと実践の徹底を図り，質的な向上をめざす。
４　家庭学習の習慣化。
　(1)　国語･数学･英語科で習熟に応じて，基礎的な内容の反復を基本にした家庭学習の定着を図り，社会･理科で発展的な内容を計画的に家庭学習を組み立てる。
　(2)　保護者啓発。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○　NRT検査
　全学年（１学年は国語・数学の２教科，２・３学年は国語・数学・英語の３教科）を対象に，学力実態の把握を目的として５月末に実施。
○　CRT検査（国語・数学・英語の３教科）
　１学年を対象に，基礎学力の定着状況を把握し，研究推進に向けて生かすために２月に実施。
○　学習及び生活実態調査
　全学年を対象に，学期ごとに実施。生徒の授業や家庭学習や生活の実態把握し，学力向上に向けて目標設定の資料とする。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○　研究会等の開催実績及び開催予定
　(1)　開催実績
　・第２回呉・賀茂地区研究協議会（国語・数学・英語指導主事招聘）
　　【日時】平成１５年８月２７日（木）
　　【場所】安浦中学校・安浦町民センター
　　【対象】呉・賀茂教育事務所管内教職員
　　【目的】小・中学校３校の授業公開，小中連携

・平成１５年度教育研究会（大学助教授及び国語・数学・英語指導主事招聘）
【日時】平成１５年１１月１３日（木）
【場所】安浦中学校
【対象】呉・賀茂，尾三教育事務所管内教職員
【目的】３年計画における２年目の中間まとめとして報告

・第５回呉・賀茂地区研究協議会（指導主事招聘）
【日時】平成１６年１月２１日（水）
【場所】安浦町民センター
【対象】呉・賀茂教育事務所管内教職員
【目的】小・中学校３校の中間まとめと今後の課題を報告

(2)　開催予定
・平成１６年度教育研究会（指導主事招聘）
【日時】平成１６年９月１３日（木）
【場所】安浦中学校・安浦町民センター
【対象】呉・賀茂，尾三教育事務所管内教職員
【目的】３年計画の研究のまとめとして，成果を発表

○　研究成果普及のための実績及び予定
(1)　実績
・日本教育新聞への掲載
・ホームページ作成
・平成１５年度研究紀要，第５回呉・賀茂地区研究協議会紀要作成
(2)　予定
・ホームページ更新
・平成１６年度研究紀要作成

○　フロンティアティチャーとしての研究の成果普及のための活動実績予定
・年６回のフロンティアティーチャー研修会での実践報告
・平成１５年度教育研究会での研究経過報告（平成15年11月13日）
・呉・賀茂地区研究主任研修会での実践報告（平成16年１月８日）
・第５回呉・賀茂地区研究協議会での研究中間報告（平成16年１月21日）

○　研究成果普及活動の成果
・他県からの研究視察

１０月　３日	大分県津久見市立日代中学校	来校
２月１０日	茨城県常陸太田市立大田中学校	来校予定
２月１６日	長崎県西彼杵郡時津町立時津中学校	来校予定
２月２４日	長崎県平戸市立中野中学校	来校予定

◇　次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□ １５年度からの新規校　☑ １４年度からの継続校

【学校規模】　□ ６学級以下　☑ ７～１２学級
□ １３～１８学級　□ １９～２４学級
□ ２５学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　☑ T．Tによる指導

☐ 一部教科担任制　☐ その他

【研究教科】　☑国語　☑社会　☑ 数学　☑ 理科

☑外国語　☑ 音楽　☑ 美術　☑ 技術家庭

☑保健体育　☑ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　☐無